

穂 落

奄美群島が米軍に占領された時期は、1946年2月2日から53年12月25日の日本復帰までの8年間である。この8年間に行政機関は、大島支庁（46年2月2日）、臨時北部南西諸島政庁（46年10月3日）、奄美群島政府（50年11月25日）、琉球政府（52年4月1日）と変わり、奄美群島政府の時に、復帰運動が始まり、琉球政府の時に日本復帰を成し遂げた。

51年2月、「奄美大島日本復帰協議会」が発足し、泉芳郎が議長に就任し、親米思想の理念で復帰運動を指導した。

52年4月28日、講和条約が発効し、奄美・沖縄は国際法

上、日本が独立した影で、日本から分離されたのである。この日を奄美では「痛恨の日」と呼び、沖縄では「屈辱の日」と呼び継がれている。

52年9月27日、毎日新聞

2年前に制作したCDの音

沖永良部の「復帰の歌」

西村 富明

（沖永良部国頭・西村書齋主宰）

が、「沖永良部と与論 分離返還」と報道した。この報道をきっかけに、若者が復帰運動に立ち上がった。沖永良部高校の生徒会が、各字で集会を開き日本復帰を訴えた。この時の行進や集会のたびに

与論/同じはらから/奄美島
友よ歌おう/復帰の歌を
我等血をはく/この思い

2、何で帰さぬ/永良部と
与論/同じはらから/帰すの
に/友よ叫ぼう/我等の熱を
我等黙って/居られようか
3、何で捨てよか/復帰の
希望/帰す帰さぬ/熱次第/
友よ励まし/手に手を取って
堅い熱意で進むのだ

「鹿児島県大島郡完全復帰」をスローガンに復帰運動を展開した。53年12月25日は、「奄美群島歴史再生の日」であり、闘い取った無血の「日本復帰の日」である。

私が6歳の時、ちようちん行列で歌った「復帰の歌」は、今でも歌うと感慨深い。

記録として、歌詞を記す。

1、何で帰さぬ/永良部と